滋賀・吉地（よしじ）薬師堂遺跡

1　所在地　滋賀県野洲郡中主町大字吉地字薬師堂

2　調査期間　一九八六年（昭61）四月～一二月

3　発掘機関　中主町教育委員会

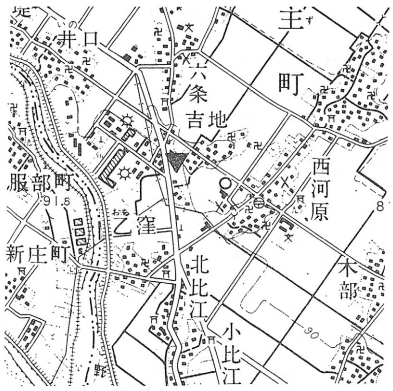
4　調査担当者　徳網克己・山田謙吾

5　遺跡の種類　集落跡

6　遺跡の年代　平安時代～室町時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

吉地薬師堂遺跡は、吉地の集落から西へ約二〇〇mにある南北に広がる中世集落跡である。周辺は、吉地大寺遺跡、光相寺遺跡、光明寺遺跡が隣接しており、遺跡密集地帯の一画を成している。一九八一年から実施されている町施行区画整理事業に伴い調査を行った。調査の結果、平安時代～室町時代の建物跡、井戸、土壙、溝跡等を検出したが、鎌倉時代の遺構が主体を占める。



木簡は、鎌倉時代前半の集落を方形に区画していたと考えられる幅四～五m、深さ〇・五～〇・八mの規模をもつ溝跡の北溝から一点、西溝から四点、南溝から一点の計六点が出土した。伴出遺物には近江型黒色土器椀、土師小皿、羽釜などの土器類の他、箸状木製品、舟形、下駄、曲物などの木製品がある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　×面観世音艹　(156)×22×3

(2)　×□地蔵艹　(127)×27×6

(3)　×□如来　(72)×26×2

(4)　×天王　(120)×21×3

(5)　「南无地蔵艹　(130)×27×4

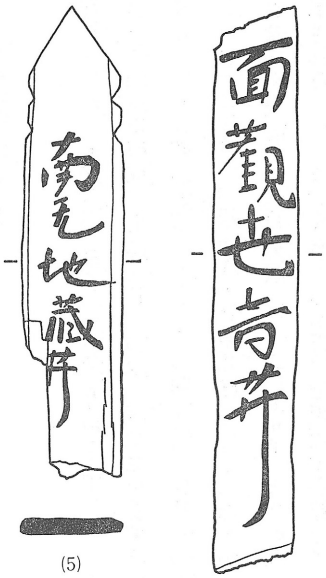
(6)　正近　(62)×19×4

(1)は恐らく「十一面観世音菩薩」であろう。上下端は、故意に切り落とした形跡がみられる。(2)の上端も同様である。(3)は「如来」の上部に墨痕が残存するが、中途で欠損するため、判読できない。(4)は上下端とも折損する。(5)は圭頭で、下端を欠損する。卒塔婆と

考えられる。(6)の「正近」は、意味不明である。

本遺跡出土の木簡は、呪符木簡に属するものと考えられ、草戸千軒町遺跡等に類例がみられる。

（山田謙吾）



(1)

(5)